

栄養教育実習の経験による 学生の栄養教諭に対する意識の変化

大富あき子

Changes in Student Awareness of Diet and Nutrition Teacher
Following an Experience of Practice for Nutrition Education

Akiko Otomi

平成17年に栄養教諭制度が創設,平成20年には学習指導要領総説に「学校における食育の推進」が明記され,同年の学校給食法改正で「学校給食の教育的意義」を明確とし栄養教諭の役割が法に位置づけられた。栄養教諭配置率が最も高い鹿児島県にある栄養教諭養成校としては,優秀な人材を育てて社会に送り出す使命がある。

そこで本研究では,栄養教育実習をより充実させる目的で,教職課程履修の本学2年生を対象に栄養教育実習および給食管理実習を履修する前後での意識の変化や,事前準備の状況をアンケートにより調査した。その結果,実習前は楽しみに思う気持ちと同時に大きな不安を持ち,事前準備で指導案作成は十分に出来たと思う反面,対象学年が異なった際の指導案の訂正と授業用媒体の作成に準備不足を感じていた。また児童・生徒との触れ合いが楽しみである一方で,児童・生徒や先生とのコミュニケーションへの不安も大きかった。しかし実習後には,栄養教育実習および給食管理実習のどちらも有意義であり,子どもたちの命を預かる責任とやりがいのある栄養教諭に,将来はぜひなりたいと強く思うように変化した。

以上から,栄養教育実習をより充実させる為にも物的および精神的な事前準備の改善が必要で,そうすることで栄養教諭の卵として意識の高い学生が育つことがわかった。

Key Words: [栄養教諭] [栄養教育実習] [給食管理実習] [食育] [学校給食]

(Received September 24, 2015)

I. 緒言

平成17年に栄養教諭制度が創設され,多くの大学,短期大学等が栄養教諭教職課程の認定を受けて現在に至っている。本学でも平成17年度入学生から導入し,平成18年には栄養教諭免許取得希望の2年次学生が初めての栄養教育実習を行った。本学の栄養教育実習開講までの経緯については既に筆者が報告している¹⁾。

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科食物栄養専攻 (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

平成20年1月中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」答申では、「7. 教育内容に関する主な改善事項(7) 社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」に「食育」が明記された²⁾。これを受けて平成20年3月告示の小学校・中学校の学習指導要領³⁾⁴⁾の第1章「総則」においては、「学校における体育・健康に関する指導は学校の教育活動全体を通じて適切に行う、特に学校における食育の推進は、体育科、保健体育科、家庭科、技術・家庭科などの教科や特別活動の時間において適切に行うよう努めること」と「学校における食育の推進」が明確にされた。また幼稚園教育要領⁵⁾の第2章「ねらい及び内容」の「健康」の領域3. 内容の取扱い(4)の中で「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」と幼稚園教育活動の中で指導すべき内容に「食育」が明記された。

さらに平成20年6月には学校給食法の、第1条「法律の目的」、第2条「学校給食の目標」が「食育」の観点から踏まえて大改正された。改正のポイントとしては、学校給食の目的を「食育」の観点から見直し、食に関する全体計画の作成や栄養教諭の役割を法に位置づけ、学校給食の教育的意義がさらに明確になり栄養教諭の役割も大きく期待されることとなった⁶⁾。

ところで学校給食は100%実施されているわけではなく、都道府県により差があることから、栄養教諭の設置についても各都道府県にゆだねられている。文部科学省の学校基本調査⁷⁾によると平成27年4月現在の栄養教諭設置数は、最も多いのが北海道(438人)、次いで大阪(428人)、兵庫(428人)であり、最も少ないのは鳥取(20人)、次いで富山・大分(29人)となっている。なお、鹿児島県は171人で全国第9位の人数となっている。

次に県別栄養教諭1人当たりの児童生徒数(公立私立小中学校)の上位と下位の3都道府県は次の表ようになる。最も少ないのは鹿児島県の812人であり、次いで北海道が887人となっている。最も多いのは東京都の10389人であり、鹿児島県の約12.8倍もの児童生徒数を1人の栄養教諭が受け持つ形となっている。

順位	県名	人数(人)
1	鹿児島	812
2	北海道	887
3	岩手	1016
45	福島	2665
46	神奈川	2810
47	東京	10389

次に、文部科学省の学校給食実施状況等調査⁸⁾によると、県別の栄養教諭と学校栄養職員に占める栄養教諭配置率は次の様になり、鹿児島県が約95%と最も高く、学校栄養職員のほとんどが栄養教諭に移行したことがわかる。最低配置率は東京都で約4.9%、ほとんどが学校栄養職員として学校給食に従事していることがわかる。

順位	県名	栄養教諭・ 学校栄養職員数(人)	うち栄養教諭 人数(人)	栄養教諭配置率 (%)
1	鹿児島県	179	171	95.53
2	兵庫県	434	352	81.11
3	香川県	94	74	78.72
45	静岡県	357	53	14.85
46	福島県	221	27	12.22
47	東京都	1,222	60	4.91

以上より、法改正で学校での食育と栄養教諭の活躍に対する期待が高まったとはいえ、都道府県によって栄養教諭に対する期待度に差があることが認められる。そのような中、鹿児島県は栄養教諭への期待が最も高い県である。

栄養教諭制度開始の平成17年以来、栄養教育実習に関する研究としては、栄養教育実習を初めて実施した平成18年度に、課程認可に向けての事前準備から認可後の栄養教育実習開講までの経緯を筆者が報告した¹⁾。また同年には、鹿児島県内の栄養教諭を対象としてアンケート調査を実施し、栄養教諭の職務内容が不確立なままの制度移行、管理職等の理解が途上、業務の効率化が不可欠など、平成18年当時の制度の問題点を明らかにした⁹⁾。翌年、栄養教育実習担当教諭と実習校の児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施し、食育に対して「時間確保の困難さ」「家庭や地域との連携の難しさ」を感じるものの栄養教育実習に対しては前向きであり、低学年の児童ほど実習生の授業を素直に受け入れたことなどを明らかにした¹⁰⁾。さらに同年、本学食物栄養専攻の学生を対象に、入学時から卒業時まで計4回のアンケート調査を実施し、栄養教諭制度の認知度、教職課程履修の理由、未履修の理由、2年間の教職課程の有益さなどを報告した¹¹⁾。しかし制度開始から8年が経過した現在はかなり状況が変わっていると推察される。

近年の研究では、荒木ら¹²⁾は、平成26年までの8年間に栄養教育実習を経験した学生50人の実習ノート、研究授業の指導案、実習評価表を精査して今後の栄養教育実習の改善点を示唆している。また横田ら¹³⁾は、栄養教諭免許状を取得した過去5年間の卒業生45名の追跡調査を行い、栄養教諭に従事することは難しいが将来の選択肢の幅が広がるなどの理由から、栄養教諭免許状は今後も取得させたいと結論づけている。また山岸¹⁴⁾は、短期大学の教職履修学生を調査して栄養教諭に対するイメージや期待、2年間の学びで有益だったことなどを報告している。しかし富山県の栄養教諭配置数は少なく実習中に栄養教諭から直接指導を受けた学生はわずか16人中1人しかいないなど、鹿児島県の実習指導の状況とかなり異なる。

現在は栄養教諭制度が開始されて10年が経過して法改正を重ね、また文部科学省スーパー食育ハイスクール事業指定¹⁵⁾も始まるなど栄養教諭の社会的認知度や期待が高まった。そこで栄養教諭配置率が最も高い鹿児島県において、栄養教育実習をより充実させて優秀な栄養教諭の卵を育て社会に送り出すには、新たな検討が必要なので本調査を実施した。

Ⅱ. 方 法

調査対象は本学食物栄養専攻2年生の栄養教育実習を履修予定の女子学生17人（以下、学生）である。調査の方法はアンケートによる集合調査法とし、栄養教育実習（本学開講科目名は栄養教育実習Ⅱ）や給食管理実習（同、給食管理実習Ⅲ）に対する気持ち、実習に向けての準備の状況、栄養教諭に対する考えなどを調査した。調査時期は、1回目は栄養教育実習前の2015年5月に、2回目は栄養教育実習後の同年7月に実施した。集計は5段階回答の単純集計とし栄養教諭に対する考え、子どもが好きか、給食管理業務や食に関する指導は好きかなどの意識の変化およびその理由について考察した。

質問内容については、実習前は11項目、実習後は7項目について、1. 非常にそう思う、2. ややそう思う、3. どちらとも言えない、4. あまりそう思わない、5. 全くそう思わない、のいずれか1つを選択させた。また、そう感じた理由は自由記述での回答とした。

栄養教育実習前の質問11項目

- | |
|--------------------------|
| Q1 栄養教育実習Ⅱに行くのはとても楽しみである |
| Q2 給食管理実習Ⅲに行くのはとても楽しみである |
| Q3 栄養教育実習Ⅱに行くのはとても不安である |
| Q4 給食管理実習Ⅲに行くのはとても不安である |
| Q5 栄養教育実習Ⅱの事前準備は十分にできた |
| Q6 給食管理実習Ⅲの事前準備は十分にできた |
| Q7 自分は栄養教諭にむいている |
| Q8 将来は栄養教諭として仕事がしたい |
| Q9 自分は小学生などの子供が好きである |
| Q10 給食管理業務は楽しい |
| Q11 食に関する指導は楽しい |

栄養教育実習後の質問7項目

- | |
|----------------------|
| Q1 栄養教育実習Ⅱはとても有意義だった |
| Q2 給食管理実習Ⅲはとても有意義だった |
| Q3 自分は栄養教諭にむいている |
| Q4 将来は栄養教諭として仕事がしたい |
| Q5 自分は小学生などの子供が好きである |
| Q6 給食管理業務は楽しい |
| Q7 食に関する指導は楽しい |

Ⅲ. 結果

(1) 実習前の意識

栄養教育実習前の意識の調査結果を、表1および図1に示す。

これより、栄養教育実習および給食管理実習を楽しみに思っている学生が約7割いる一方で、どちらとも言えない、あまりそう思わないという学生が約3割いた。不安感は、いずれの実習も約9割とほとんど全ての学生が不安に思っていた。不安の方が強いために、楽しみと思えなかったと推察される。

また事前準備については、栄養教育実習では約6割が、給食管理実習では約5割が十分にできたとは思わないと回答しており、十分に出来たと思う学生は給食管理実習では約2割いたものの、栄養教育実習では約5%しかいなかった。

また、自分は栄養教諭にむいていると思う学生は0で、そうは思わない、どちらともいえないが約5割であった。一方で、将来は栄養教諭として仕事がしたい学生は約2割、どちらとも言えないが約6割であった。また、小学生などの子どもが好きで学生は約9割と、教員免許取得を目指す学生のほとんどが子どもが好きであった。また給食管理業務、食に関する指導ともに楽しいと思う学生は約4割と、実習前にはさほど高い値ではないことがわかった。

表1. 実習前の意識 上段は人数（人）を表し、下段カッコ内は割合（％）を表す

	1. 非常に そう思う	2. やや そう思う	3. どちらと も言えない	4. あまりそ う思わない	5. 全くそう 思わない
Q1 栄養教育実習Ⅱに行くのはとても楽しみである	3 (17.6)	8 (47.0)	4 (23.5)	2 (11.7)	0 (0)
Q2 給食管理実習Ⅲに行くのはとても楽しみである	4 (23.5)	8 (47.0)	3 (17.6)	2 (11.7)	0 (0)
Q3 栄養教育実習Ⅱに行くのはとても不安である	10 (58.8)	5 (29.4)	2 (11.7)	0 (0)	0 (0)
Q4 給食管理実習Ⅲに行くのはとても不安である	10 (58.8)	5 (29.4)	1 (5.8)	1 (5.8)	0 (0)
Q5 栄養教育実習Ⅱの事前準備は十分にできた	0 (0)	1 (5.8)	5 (29.4)	9 (52.9)	2 (11.7)
Q6 給食管理実習Ⅲの事前準備は十分にできた	0 (0)	4 (23.5)	5 (29.4)	7 (41.1)	1 (5.8)
Q7 自分は栄養教諭にむいている	0 (0)	0 (0)	9 (52.9)	7 (41.1)	1 (5.8)
Q8 将来は栄養教諭として仕事がしたい	2 (11.7)	2 (11.7)	10 (58.8)	3 (17.6)	0 (0)
Q9 自分は小学生などの子供が好きである	9 (52.9)	6 (35.2)	1 (5.8)	1 (5.8)	0 (0)
Q10 給食管理業務は楽しい	2 (11.7)	4 (23.5)	9 (52.9)	2 (11.7)	0 (0)
Q11 食に関する指導は楽しい	1 (5.8)	6 (35.2)	9 (52.9)	1 (5.8)	0 (0)

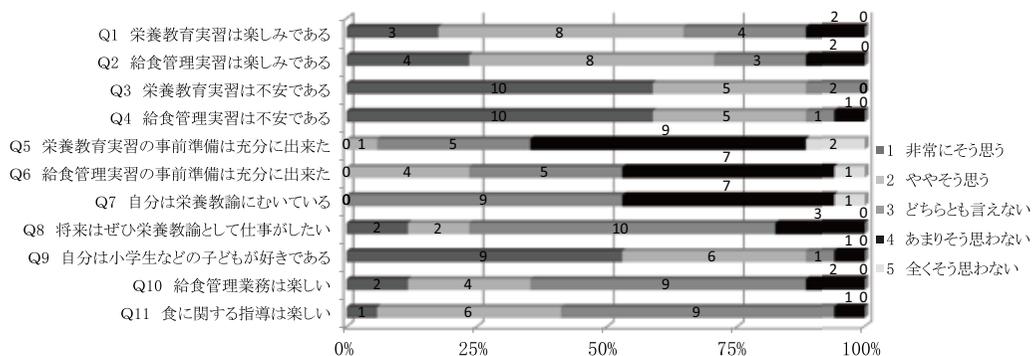


図1. 栄養教育実習前の意識 (棒グラフ内の数字は人数)

次に、栄養教育実習を楽しみに思う理由および不安に思う理由を表2に示す。これより、子どもが好きで学生が多いためか、子どもと話したり遊んだり、触れ合うことを楽しみにしているのが最も多かった。その他、実習で様々なことが経験できる、学校給食が食べられる、そして実習校の優しい先生方にご指導いただけるなどが楽しみという意見があった。一方で不安に思う理由としては、授業がきちんと出来るのか、指導案や媒体に自信が無いなど授業への準備不足に関するものが最も多かった。次いで実習先の児童や先生とのコミュニケーションへの不安があげられた。

表2. 栄養教育実習を楽しみに思う理由、および不安に思う理由 (表中のカッコ内は人数)

思う理由	栄養教育実習を楽しみに	児童・生徒と話したり遊んだり触れ合うことが楽しみである(9)
	児童・生徒と一緒に学校給食を食べることが楽しみである(2)	
	ご挨拶訪問時に児童が笑顔で挨拶をしてくれて早く子どもたちと遊びたいと思ったから	
	担当の先生から、実習生が来ることを児童がとても喜んでいて聞いて楽しみに思った	
	沢山のことが経験できるので楽しみである	
	今まで短大で教職について様々なことを学んだので実際の実習が楽しみである	
	実習校の先生方は優しく、とてもよい雰囲気だったから	
思う理由	不安に	自分に授業がきちんとできるのかが不安(8)
	児童に先生としての対応がきちんとできるのかが不安(4)	
	児童の前で話ができるのかが不安である(3)	
	自分の考えた指導案や媒体に自信がない	
	事前研修を受けて、自分にやっていけるのかが不安になった	
	実習校の先生方とコミュニケーションがきちんととれるのかが不安	

次に、給食管理実習を楽しみに思う理由と不安に思う理由を表3に示す。短大で学んだ大量調理は100食なので、それ以上の規模の大量給食の実習が楽しみ、また学校給食が食べられることが楽しみ、などの理由があげられた。一方で不安に思う理由としては、事前課題の献立作成に対して自信がない、自分に務まるのか、調理技術の未熟さ、実習内容がよくわからない、実習先へ迷惑をかけてしまうのでは、などがあげられた。

表3. 給食管理実習を楽しみに思う理由、および不安に思う理由（表中のカッコ内は人数）

給食管理実習を楽しみに思う理由	事前挨拶訪問で給食センターの最新設備を見学して、楽しみな気持ちが増えた
	いろいろなことが実地に学べるので
	学校の600食という大量調理も経験してみたい
	久しぶりに学校の給食が食べられるから
給食管理実習を不安に思う理由	自分の献立に自信が無い(2)
	事前課題を見て、自分に務まるのか不安
	衛生管理など給食管理に必要な知識が不足している(2)
	調理技術が未熟で仕事のスピードについていけない(5)
	失敗するのではないかと(2)
	短大の大量調理より規模が大きいため自分に務まるのか不安(2)
	実習中にどのような事をするのが不安
先生方に迷惑をかけてしまうのでは(3)	

次に、栄養教育実習の事前準備が十分に出来た点と準備不足な点についての自由記述の結果を表4に示す。準備が出来た点は指導案や指導媒体の作成、小学校6年の家庭科の授業内容の理解、児童と接する心構え、実習先での心得の理解、校長先生へのご挨拶などがあげられた。一方で特にないと回答もあった。

準備不足の点は、授業に沿った媒体作成が最も多く、配属が想定学年と異なった場合の指導案の訂正と授業の練習もあげられた。これら直前の変更で慌てないためにもさらに多くの指導

表4. 栄養教育実習の事前準備が十分に出来た点、足りなかった点（表中のカッコ内は人数）

準備が十分に出来た点	指導案作成（実習担当の先生からのアドバイスも含む）(8)
	指導媒体の作成(2)
	小学6年生家庭科の授業内容の理解
	児童と接する心構え
	実習先での心得の理解(2)
	校長先生、教頭先生へのご挨拶がしっかりとできた
	大きな声を出す練習
	持ち物の準備 特にない(3)
準備不足な点	授業に沿った媒体作成(10)
	想定学年が違った際の指導案の訂正(7)
	授業の練習(2)
	授業の題材を増やして指導案を沢山作るべきだった
	教科に関する知識
	心構えの準備(3)
	実習ノート記入（実習の抱負） 先生方とのコミュニケーション能力

案を作るべきだったとの前向きな意見もあった。

次に、給食管理実習の事前準備が十分に出来た点と準備不足な点について自由記述の結果を表5に示す。

給食管理実習の事前準備で十分に出来た点は、事前課題の献立作成が最も多く、次いで衛生管理の知識、給食時間の指導案、大量調理用への分量の調整や調理の流れの把握など、自分の作成した献立を給食に活用するための準備もあげられた。

一方で準備不足としては、献立の内容に自信がない、給食管理や衛生管理の知識不足、調理の知識や技術不足、給食時間の指導案や放送原稿の準備不足があげられた。

表5. 給食管理実習の事前準備が十分に出来た点、足りなかった点 (表中のカッコ内は人数)

準備が十分に出来た点	事前課題の献立作成(9)
	衛生管理の知識(3)
	給食時間の指導案
	自分の献立を大量調理の分量に調整した
	調理の流れの把握
	栄養教諭への理解
	持ち物の確認(2)
	爪を短く切る
準備不足な点	献立の内容に自信が無い(6)
	給食管理についての知識(2)
	衛生管理についての知識(3)
	調理技術や知識(7)
	給食時間の指導案の準備
	放送原稿の準備
	実習ノート記入

(2) 実習後の意識

実習後の意識については、表6および図2に示す。

栄養教育実習も給食管理実習もどちらも非常に有意義だったとの回答がほとんどであった。実習前には栄養教諭にむいていると思う学生は0で、むいていない、またはどちらでもないという学生が5割ずつであったが、実習後には栄養教諭にむいていると思う学生は約2割に増え、むいていないと思う学生は約1割と激減した。また小学生などの子どもが好きという回答が、ほぼ全員になった。給食管理業務が楽しいと思う学生は、実習前には約3割だったが、実習後には約8割に増加した。同様に食に関する指導が楽しいと思う学生も、実習前の4割から実習後は9割と大幅に増加した。

表6. 実習後の意識（表中のカッコ内は人数）

	1. 非常に そう思う	2. やや そう思う	3. どちらと も言えない	4. あまりそ う思わない	5. 全くそ う思わない
Q1 栄養教育実習は有意義だった	16 (94.1)	1 (5.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
Q2 給食管理実習は有意義だった	17 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
Q3 自分は栄養教諭に向いている	0 (0)	4 (23.5)	11 (64.7)	2 (11.7)	0 (0)
Q4 将来は栄養教諭として仕事がしたい	2 (11.7)	11 (64.7)	4 (23.5)	0 (0)	0 (0)
Q5 自分は小学生などの子どもが好きだ	13 (76.4)	3 (17.6)	0 (0)	1 (5.8)	0 (0)
Q6 給食管理業務は楽しい	7 (41.1)	5 (29.4)	5 (29.4)	0 (0)	0 (0)
Q7 食に関する指導は楽しい	8 (47.0)	7 (41.1)	2 (11.7)	0 (0)	0 (0)

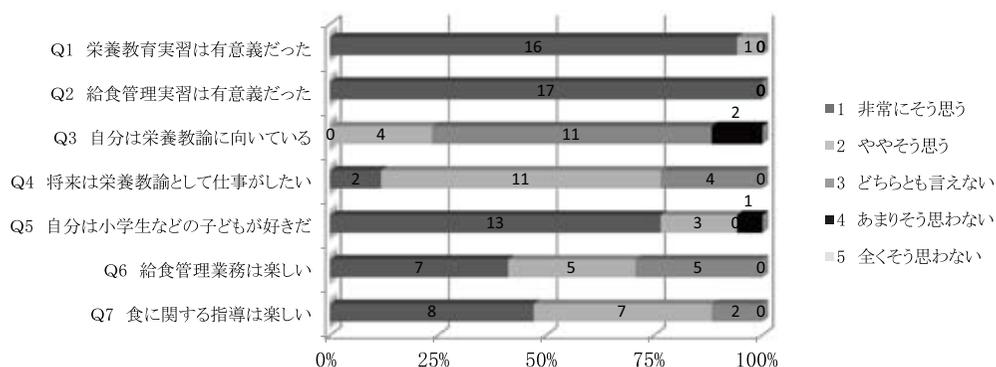


図2. 栄養教育実習後の意識(棒グラフ内の数字は人数)

(3) 実習の前後での意識の変化

次に、実習の前後での意識の変化を比較検討した。「自分は栄養教諭に向いている」と思う意識の変化を図3に、「将来はぜひ栄養教諭として仕事がしたい」と思う意識の変化を図4に、「小学生などの子どもが好きである」と思う意識の変化を図5に、「給食管理業務は楽しい」と思う意識の変化を図6に、「食に関する指導は楽しい」と思う意識の変化を図7に示す。

図3より、栄養教諭に向いていると思う学生が実習前は0人だったが、実習後はむいていると思う学生が4名に増え、そしてむいていないと思う学生が激減した。

図4より栄養教諭として仕事がしたいと思う学生は実習前には4人と少なく、どちらとも言えないが最も多かったが、実習後には、ほとんどの学生が栄養教諭として仕事がしたいと思うようになった。栄養教育実習の経験は学生の栄養教諭に対する意識の変化に非常に大きな影響を与えることがわかる。

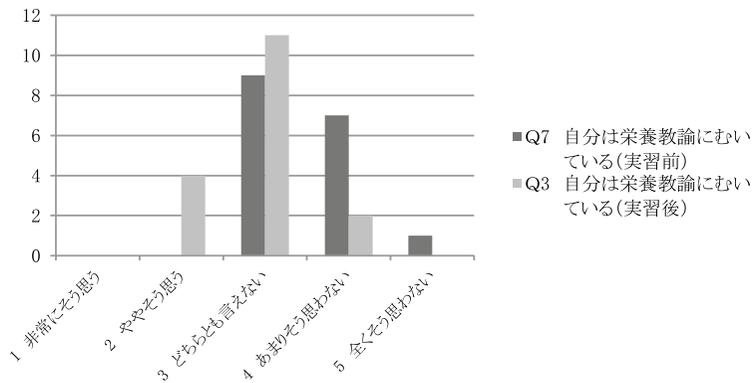


図3. 実習の前後での意識の変化(人)
「自分は栄養教諭にむいている」

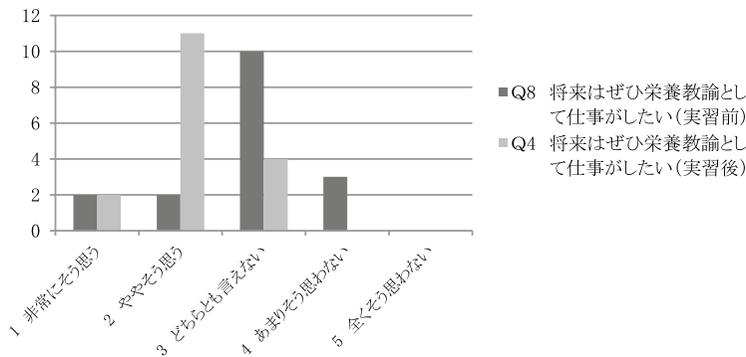


図4. 実習の前後での意識の変化(人)
「将来はぜひ栄養教諭として仕事がしたい」

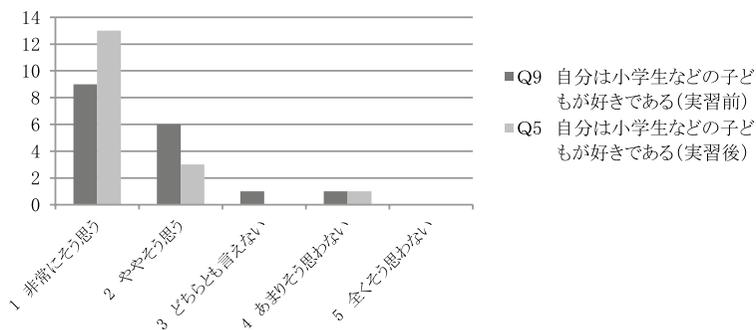


図5. 実習の前後での意識の変化(人)
「自分は小学生などの子どもが好きである」

図5より、小学生などの子どもが好きであるかどうかに対しては実習前から好きと思う学生が多かったが、実習後にはさらに増加した。

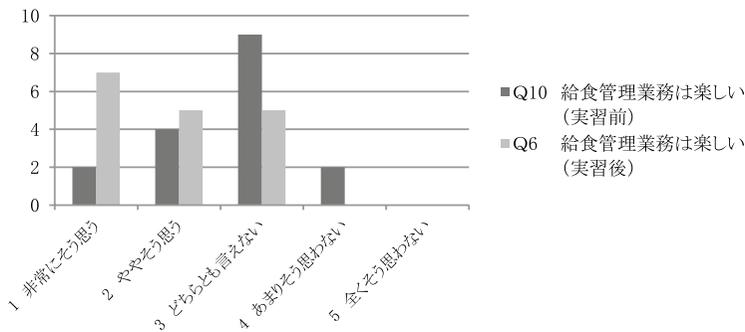


図6. 実習の前後での意識の変化(人)
「給食管理業務は楽しい」

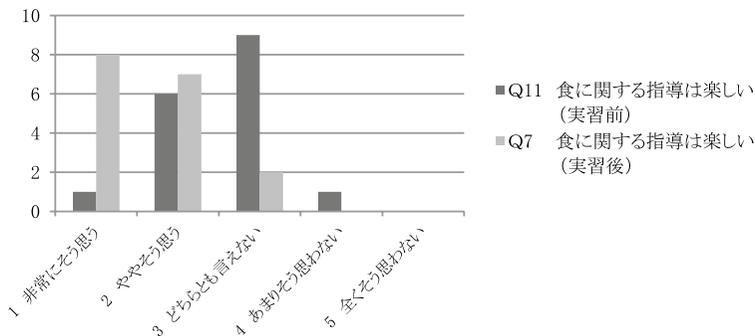


図7. 実習の前後での意識の変化(人)
「食に関する指導は楽しい」

図6より、給食管理業務が楽しいと思う学生が少なく、どちらとも言えないとの回答が最も多かった。しかし実習後には、2/3以上の学生が給食管理業務が楽しいと思うように変化した。実習前には不安が大きく楽しいとは思えなかったものが、実習を経験して不安が減ったためと思われる。

図7より食に関する指導が楽しいと思うかについても給食管理業務同様に、実習前にはどちらとも言えないとの回答が最も多かったが、実習後には2人を除いて全ての学生が楽しいと思うように変化した。

次に、実習前後で意識の変化があった学生、および変化が無かった学生のその理由をまとめた。表7は、「栄養教諭にむいている」かどうかの変化である。変化があった学生は、児童・生徒に対して教えることはやりがいがあり、とても楽しいと実感ができ、充実していたため栄養教諭にむいていると思ったようだ。意識の変化が無かった学生は、栄養教諭の業務の多さと難しさ、給食管理の難しさ、食に関する知識や経験の不足、コミュニケーション能力の必要性などを理由にあげていた。

表7. 実習前後で意識の変化があった学生, および変化の無かった学生の「栄養教諭にむいている」理由 (表中のカッコ内は人数)

学生 の 理 由 実 習 後 に 、 そ う 思 う よ う に 変 化 し た	児童に対する教育の楽しさがわかったため(3)
	児童と遊んだり話をする中で、子どもたちが好きだと思ったため
	「好き嫌いをなくそう」という授業後の給食では、初めて残食が無かったと担任に聞いて、教師の仕事にやりがいを感じた
	児童の喜ぶ姿や答えてくれる内容を想像しながら教材の準備ができて充実したため
	生徒のために授業をすることがとてもやりがいのあることだと知り、もっといい授業をしたいと感じた
	むいていると思うようになったが、栄養士業務(献立作成、発注業務、事務処理等)を一人で行い、またアレルギー対応は間違いが許されず、自分にできるか不安は大きい
	授業前には緊張し実習が嫌に思うときもあったが、実習後にはやりがいや楽しさを実感できたため
実 習 前 後 で 変 化 の 無 か っ た 学 生 の 理 由	栄養教諭としての経験、知識、技術などがまだまだ足りないため
	子どもたちに教えるためには、多くの知識、わかりやすく説明する力が必要だが、自分にそれができる自信がない
	教室での児童とのコミュニケーションには自信があるが、栄養士業務にあまり自信が感じられなかったため
	給食管理での献立作成、衛生管理についてまだ身につけていないことが多い
	児童との触れ合いは楽しく充実していたが、人の前に立って話をするのがまだ苦手なので
	児童への指導は楽しかったが、自分一人で指導案を作るのは難しいと感じる
	栄養教諭の業務内容が非常に多いので、私には難しいと感じた
多くの人とコミュニケーションを活発にとることが自分には大変だ	

表8は、「将来はぜひ栄養教諭として仕事がしたい」かどうかの質問に対する、実習の前後での意識の変化の有無である。意識の変化のあった学生は、これからの食生活に影響を与える時期に指導ができる栄養教諭はとてもやりがいがあると思っていた。他には児童・生徒が食に興味を持つための関わりが楽しくてもっと指導をしたい、他の科目と関連させて多くの授業で活躍できることに魅力を感じる、などがあった。実習の前後で変化の無かった学生も、概ね栄養教諭の仕事には魅力とやりがいを感じ、出来れば栄養教諭になりたいが採用数が少ないので就業が困難と思っていた。

表9は、「自分は小学生などの子どもが好きである」かどうかの質問に対する、実習の前後での意識の変化の有無である。実習前から子どもが好きで学生がほとんどであったために、変化のあった学生、無かった学生のいずれも、児童・生徒との休み時間の触れ合いや、授業で教えることが楽しくて充実していたとの回答が多かった。

表8. 実習前後で意識の変化があった学生、および変化の無かった学生の「将来はぜひ栄養教諭として仕事がしたい」理由（表中のカッコ内は人数）

実習後に、 思うように 変化した 学生の理由	小・中学生というこれからの食生活に影響を与える時期に力になれる栄養教諭はとてもやりがいがあると思った(5)
	仕事は多岐にわたり大変だが、生徒の給食を食べる姿を見たり、指導の楽しさを感じると、栄養教諭の仕事はやりがいがあると思う(2)
	児童・生徒と関わることがすごく楽しくて、やりがいを感じられたため(3)
	児童ともっとコミュニケーションをとり、食に関する指導をもっと沢山したいと思ったため(2)
	他の科目の授業と関連させて、多くの場面で活躍することができる栄養教諭は魅力がある
	私の授業に興味を持ってくれるのがとても嬉しい 授業を通して食育にとっても興味を持ったため
実習前後で 変化の無か った学生の理由	授業を通して多くの子どもが食育に興味を持ったのが嬉しく、可能ならば将来は栄養教諭として働きたい(2)
	栄養教諭の仕事は大変だが、かわいい子どもたちの為に仕事をするを思うと、やる気が出て誇りに思える
	栄養教諭にはなりたいが、教員採用試験の難関を突破することは自分には自信がない(2)
	忙しくて疲れている時でも子どもの笑顔を見ると元気がもらえたので、いい仕事だと思った
	子どもたちが給食室に来て、給食の話が出来たのがとても楽しかった

表9. 実習前後で意識の変化があった学生、および変化の無かった学生の「自分は小学生などの子どもが好きである」理由（表中のカッコ内は人数）

実習後に、 思うように 変化した 学生の理由	子どもたちはとても素直で元気なので、自分も元気でいられる気がする(2)
	子どもは個人で違う面を持ち、一人一人を知ることが楽しく、また個性を生かしてあげられるようになりたい
	子どもと話をするのが好きで、触れ合うのが楽しいから(2)
実習前後で 変化の無か った学生の理由	子ども達が素直でかわいく、一緒に過ごせて楽しかった(9)
	疲れていても児童と遊んだり話したりすると疲れを忘れることができる
	笑顔を見ると癒される感じがして、素直な意見や考え方を持つ子どもたちに魅かれる
	子どもと遊ぶのが好きで、また自分が知らなかった新しい発見をすることができるから
	休み時間に担当の児童と遊んだが、沢山話しかけてくれたのでとても嬉しかった
	実習校の児童がとても素直で授業がしやすく、教えていて楽しいと感じられたため(2)
	毎日、必死に頑張っている姿が好きになった
	昔から近所の小さい子と遊んでいたで、子どもと関わるのは元々好きである
生徒とのコミュニケーションが楽しかった半面、自分のコミュニケーション能力のなさも痛感した	

表10は、「給食管理実習は楽しい」かどうかの質問に対する、実習の前後での意識の変化の有無である。楽しく思うようになった理由は、責任の大きな仕事でやりがいを感じられた、自分の考えた給食が子どもたちに喜んでくれたことが嬉しく給食提供の素晴らしさが実感できた

ためとの回答が多かった。また短大内での100食の大量調理に比較して何倍もの食数の大量調理を実地に学べたことが有意義だったようだ。また厨房の雰囲気がとてもよかったことも実習生にとっては大きな要因になった。変化が無かった理由は、業務の忙しさ、厳しさ、困難さをあげていた。

表10. 実習前後で意識の変化があった学生、および変化の無かった学生の「給食管理実習は楽しい」理由（表中のカッコ内は人数）

実習後に、 そう思うように 変化	子どもの命を預かる責任のある仕事なので、楽しさよりもむしろやりがいを感じられた(3)
	自分の献立が給食となった日に、児童・生徒から嬉しい言葉を沢山かけてもらい嬉しかった(4)
	給食を提供する素晴らしさを感じることができた
	短大ではここまで大量に調理することが無かったので貴重な体験ができた
	食べてくれる人を考えながら調理をすると楽しかったから
	献立のパソコン入力、検収や調理が毎日出来て多くのことを学べたため
	1日の食数が1万3000食という量には驚いたが、様々な体験が出来て楽しかった
	厨房の雰囲気がとてもよかったため
無変化	児童・生徒のために給食を作るのはやりがいがあることだが、同時に責任が重く、厨房作業は想像以上に体力も必要であり、一人で業務をこなす自信が無い(5)
た理由 思わなくなっ	栄養教諭の先生がとても忙しそうだったが、全ての業務は児童に美味しい給食を届けるためと思えば楽しく感じられる
	アレルギー食や衛生管理は厳しく、方法も調理技師全員が把握して実践することが大切で、難しく大変なことがとても多かった

表11は、「食に関する指導は楽しい」かどうかの質問に対する、実習の前後での意識の変化の有無である。自分の行った授業を児童・生徒がよく聞き内容を理解してくれた、その日学んだことを給食の食べ方に生かしてくれたのが嬉しかった、食は命に関わる重要なことなのでやりがいも実感できた、わかりやすく指導することの難しさにやりがいを感じた、などがあげられた。変化の無かった学生の理由は、やりがいはあるが準備が大変で毎日の仕事にするには自信がない、わかりやすく指導することの難しさと大変さを実感した、などの回答があった。

表11. 実習前後で意識の変化があった学生、および変化の無かった学生の「食に関する指導は楽しい」理由（表中のカッコ内は人数）

学生の理由 実習後に、 そう思うように 変化した	児童・生徒が授業をよく聞き発表も積極的にしてくれ、授業内容を理解してくれたのが嬉しかった(5)
	自分の話の一つ一つ反応をくれて、その日学んだことを給食の食べ方に生かしてくれたのが嬉しかった(2)
	児童の学ぶ姿が印象に強く残る、最終日まで寝る時間も惜しんで評価授業の準備をしたが、児童のことを思うと全く苦ではなかったし、それ以上に楽しかった
	食は命に関わること、これを指導して児童の生きる力となるところが素晴らしいと思った
	自分の持つ知識を相手に伝えることは難しいが楽しかった
	児童からの返答は予想外の事が多く、子どもの立場に立った考えや答えが勉強になった
	子どもが好きなので、児童と関わるのが嬉しくて楽しかった
学生の理由 実習前後で 変化の無かつた	指導は児童の反応も良くてとても楽しかったが授業の準備が大変、実習中は、児童の為と思ったら寝る時間が少なくとも頑張れたが、仕事として毎日するのは自分には困難である
	児童が私の話に興味を持ち理解してくれるのは嬉しかったが、わかりやすく噛み砕いての説明が想像以上に難しかった
	1つのことを伝えるにも、指導方法、工夫の仕方ですぐ生徒への伝わり方、理解の度合いも変わるので大変さがわかった
	実習中、給食時間の指導と授業の2回指導をしたが、難しいことが沢山あった

Ⅳ. 考 察

栄養教育実習および給食管理実習を経験する前後での学生の意識の変化を調べたところ、実習前には楽しみではあるものの不安が非常に大きかったが、実習後には楽しく有意義だったという学生が大幅に増えた。栄養教育実習の準備で十分に出来た点に多くの学生が指導案作成と答えたが、本学では栄養教育実習の前に授業用2種類と給食時間用1種類の合計3つの指導案を個人指導で作成させているためである。しかし実習校での自分の配属学年がわかるのが早くても実習の約1ヶ月前なので、想定した学年と異なった時の授業や指導案作成に不安が大きいようだ。現に準備不足な点として学年が違った際の指導案の訂正および授業に沿った媒体作成との回答が多い。今後の課題としては学年や教科が違った際に速やかに新しい指導案が作成できるような事前の指導が必要である。

本調査の対象学生は子どもが好きで、児童・生徒との触れ合いを楽しみにしていたが、授業がきちんとできるか、児童・生徒や先生方とコミュニケーションがうまく取れるかなどの不安も持っていた。この点では、前回の調査¹¹⁾と同様の結果だった。前回の調査ではさらに評価授業に対する不安が圧倒的に多かったが、実習前に学生一人ずつの模擬授業を経験させるよう事前指導を改善したので本調査ではそのような意見は無くなった。

給食管理実習については、不安、準備不足の項目ともに調理技術の未熟さに由来するものが多かった。事前の献立作成は、実習先から課題が課されている場合は課題作成の個人指導を、課されていない場合には主食が米飯およびパンとして1食ずつ計2食の献立作成を個人指導して

いる。それでも自分の献立が大量調理を経て給食になることに自信が無い学生が多かった。

しかし実習後には、栄養教育実習および給食管理実習のいずれも有意義で楽しく、将来は栄養教諭として仕事がしたいと思う学生が大幅に増加した。実習先で不安に感じている学生に対して懇切丁寧な指導をいただいたものと推察できる。食に関する指導では児童が授業をよく理解し、そして給食の残食が減ることで授業の効果が表れて大きなやりがいも実感できた。給食管理実習でも児童・生徒が給食を美味しいと食べてくれて、栄養教諭の仕事は命を預かる責任ある仕事と実感できた。

このように栄養教育実習と給食管理実習がやりがいがあって楽しいものという認識で実習を終えることが出来たのは、将来、栄養教諭として学校や学校給食センターに就業する際にはもちろんのこと、今後の栄養士として学校以外の職場（保育園や病院など）への就業に際しても非常に有効なことと思われる。

本学では、栄養教育実習を行った学生は全員、鹿児島県教員採用試験（栄養教諭）を受験している（同じ試験日の他県の採用試験受験者を除く）。短大に入学して1年4ヶ月での採用試験受験でもあり、また鹿児島県の栄養教諭受験倍率は高い（平成27年度教員採用試験の最終合格倍率22.3倍¹⁶⁾）ことから現役での合格は非常に難しい。しかし難しいながらも本学で現役での一次合格者がいること、また卒業後に再受験をして栄養教諭として採用されている卒業生も多数いること¹⁷⁾から、栄養教諭免許状を取得して採用試験を経験することは学生の卒業後の進路変更の選択に非常に有効である。

現在、全国的に認定こども園が急増している（平成23年762園、平成25年1099園、平成27年2836園¹⁸⁾）が、認定こども園によっては、栄養士の募集要項に栄養教諭免許保持者と限定する園もある。栄養教育実習での食育指導や学校給食センター等での大量調理を学んだ経験を重視していると見られ、幼児期からの食育がますます期待される今後は、このような認定こども園が増加することが予想される。

以上から、実習前の不安を完全に払しょくするのは難しいが、少しでも学生の不安を少なく実習が楽しみと思うように、また実習中も有意義な実習となるように、評価授業の指導案や指導媒体、給食の献立作成などの事前準備をしっかりとすること、またコミュニケーション能力や調理技術の向上も支援することなど、より一層の改善・充実が必要であることがわかった。またそのことが、今後も益々活躍が期待される栄養教諭の卵を養成する養成校として、意識の高い学生を育てられることがわかった。

文 献

- 1) 大富あき子, 青木五百子, 大内山雅枝, 花木秀子: 栄養教諭制度開始に伴う教育活動記録 - I 栄養教育実習開講までの流れ, 鹿児島純心女子短期大学紀要, 37, 55-67 (2007)
- 2) 金田雅代: 「栄養教諭論」, 建帛社, 7 (2012)
- 3) 文部科学省: 「小学校学習指導要領平成20年3月告示」, 東京書籍, 13-14 (2013)
- 4) 文部科学省: 「中学校学習指導要領平成20年3月告示」, 東京書籍, 15-16 (2013)
- 5) 文部科学省: 「幼稚園教育要領平成20年3月告示」, 教育出版, 3-4 (2008)

- 6) 金田雅代：「栄養教諭論」，建帛社，16（2012）
- 7) 文部科学省：学校基本調査，文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm
- 8) 文部科学省：学校給食実施状況等調査，文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/kyuushoku/1267027.htm
- 9) 大富あき子，大見奈緒子，大内山雅枝，花木秀子：栄養教諭制度開始に伴う教育活動記録－Ⅱ 鹿児島県内学校栄養士を対象とした栄養教諭制度に関する意識調査，鹿児島純心女子短期大学紀要，37，69-77（2007）
- 10) 大富あき子，大内山雅枝，花木秀子：栄養教諭制度の施行に伴う教育活動記録－Ⅲ 鹿児島県における栄養教育実習担当教諭と小・中学生の食育に関する意識調査について，鹿児島純心女子短期大学紀要，38，75-91（2008）
- 11) 大富あき子，大内山雅枝，花木秀子：栄養教諭制度の施行に伴う教育活動記録－Ⅳ 栄養士養成課程在学中における短期大学生の栄養教諭に対する意識の変化，鹿児島純心女子短期大学紀要，38，93-113（2008）
- 12) 荒木裕子，谷口真理子，細井陽子：「栄養教育実習」の実施状況と課題，九州女子大学紀要，51(2)，149-156（2014）
- 13) 横田直子，坂本裕子：短期大学における栄養教諭養成の現状と課題－卒業生の追跡調査の結果の報告－，日本食育学会誌，8(2)，143-150（2014）
- 14) 山岸博美：短期大学生における栄養教諭に関する意識調査，富山短期大学紀要，49，1-7（2014）
- 15) 文部科学省：平成27年度スーパー食育ハイスクールの指定について，文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1356759.htm
- 16) 鹿児島県教育委員会発表資料
- 17) 鹿児島純心女子短期大学ホームページ「卒業生の活躍」
<http://www.k-junshin.ac.jp/juntan/ja/news/alumnae.html>
- 18) 内閣府子ども・子育て本部，平成27年5月8日報道発表「認定こども園の数について（平成27年4月1日現在）」 <http://www.youho.go.jp/press150508.html>

